

反対の意見書を出しましょう！

換地設計決定のため、「稲荷緑地形状変更の都市計画 公告・縦覧」が行われています

広報「はむら」1月15日号、9ページ参照。

- ・1月29日(火)迄、市役所 2階の都市計画課で閲覧出来ます。(反対の会にコピーあります。A4、4枚です)
- ・「意見書」に決められた様式はありません。名前と住所を書き添え直接市役所に提出。
又は、都市整備部に郵送してください。
〒205-8601(市役所の住所不要)
都市整備部都市計画課 宛
- ・「意見書」提出期限は2月5日(火)迄です。
- ・換地設計案の宅地や街区を決定するため緑地の形状を変更するもの。

反対の会の意見(御意見を反対の会にお寄せ下さい)

「換地設計を決定する為の都市計画の変更であり反対します」

「区画整理を進める為の都市計画変更なので反対します」

「都道を縮小し現道を活かしたまちづくりを求めます」

総会のお知らせ

皆でこの街を守ろう！

2月11日(日) 午後1時30分～6時頃

本町会館 1階 和室

市は、多くの反対や見直し、修正の意見を無視し、換地案を決定しようとしています。皆で意見を出し合いましょう。

大切な時期です。どなたでも自由にご参加下さい

バブル時の区画整理計画、実現不可能

- 12月市議会報告 -

山崎陽一議員 区画整理白紙撤回要求 第23弾

山崎：28年度迄の事業費、一般会計額。人件費、事務費、委託費、工事費は？

市長：東京都の羽村大橋拡幅工事に伴う都道3-40-12号線沿線の整備を優先し、平成28年度には羽村大橋周辺の工事が進められていると考える。

H25年度の歳入・歳出総額は、約4億3千万円。

歳入 一般会計繰り入れ、約3億2千万円、市債約1億1千万円。

歳出 職員人件費6千5百万円。事務経費（土地の購入含む）約1億3千万円、委託費（工事費・審議会員選挙等）約1億2千万円、公債費（借金）を約1億円。

H26年からH28年度迄の歳入・歳出はH25年度とほぼ同額で、H26年度4億3千万円、H27年度約4億円、H28年度が約4億1千万円。

反対の会コメント

年間4億円の事業費で計算すると完了まで約100年かかり、実現は不可能。進めぬ事業に毎年、人件費や事業用地購入の元利返済など2億円近くを垂れ流している。

多くの反対を無視、個別交渉などで地域共同体を壊し、移転補償額は不明、清算金は事業終了時でないとは判らない。長期間、住民を不安の中に置き、また、財産を侵害するため、国土交通省は長期化した区画整理の見直しを勧めている。

山崎：資料では、H25年に羽村大橋のつき当たり3棟が移転。26年度の一棟3億円は駅前の農協。それが1年遅れるのか？

都の羽村大橋の拡幅工事が進まなければ、進まないということか？

阿部_{部長}：その通り。

山崎：踏み切り脇で1棟、移転工事が行われ、既に家も建っている。目的は歩道を広げるとのこと。踏切と東側都道の拡幅はどうなるのか？

阿部部長：曳き屋補償で行った。JRが踏切の部分を開けるのか、信号機を移設しなければいけないのか、難しい問題も多々ある。JRの東側には段差があり、下は駐輪場(都道)。この辺についても都に要望する。

「反対の会コメント」

福生寄り踏切脇の家が突然仮換地指定で隣の市有地に移った。踏切や青梅線の東側道路工事の見通しもなく、突然の仮換地指定は不自然極まりない。

平成10年の都市計画変更で、羽村市は「区画整理で整備する」と都道を拡大。都の道路計画は羽村大橋の拡幅のみだ

山崎：羽村大橋は27年度までに着手ということだった。具体的工事は？

阿部部長：東京都からはオーバーブリッジ(陸橋)を架けると聞いている。その橋げた部分の地質調査、ボーリング調査を13箇所で行っている。

計画の進め方は、詳細設計が出来上がれば権利者に説明する。大橋の拡幅に併せ陸橋を迎え入れる西口側(東詰)の擁壁工事を進める。暫定道路を通すか、東京都と協議する。

「反対の会コメント」

東京都の第3次道路事業化計画は羽村大橋の拡幅までだ。しかし、羽村市は、H10年に都市計画を変更、区画整理で行うとして、3-4-12号線を幅員18m~24m 24m~40mに、駅前道路も16m 20mと大幅に拡幅変更。モノレール対応のために新設した7-5-1号線(新奥多摩街道とJRの間に幅15m)は、東京都の計画にはない。

山崎：2次換地設計(案)の意見書に対する採択・不採択通知に何通の意見書が提出されたか？

阿部部長：H24年9月、373人に通知を発送。修正対象者の131人からは意見書が20人、全体的には104件の意見書が提出された。

区画整理が市民サービスの低下を招く！

市長：H 24 年度中を目途に第 2 次換地設計案を決定し、この換地設計案に基づき事業計画の変更などの手続きを進めて行く予定。

山崎：先行きが不透明でリスクの大きい事業だ。事業を見直すべき。

市長：2 度の換地設計案の作成や駅前周辺の暫定整備等を行い、ここまで一定の成果が得られた。今後、事業を進めるには、様々な課題も想定されるが理解を得ながら着実な伸展を図りたい。

山崎：財政見通しでも区画整理に使えるのは年間 4 億円くらい。355 億円の事業は難しい。いずれ、見直さなければならない。

20 年前、平成 4 年の 9 月議会で前市長が「16.7ha から 42ha に拡大し、区画整理を基軸に行う」と答弁した。当時の羽村の人口は 5 万 3863 人、一般会計予算が約 188 億円、税収 106 億円、基金残高が 80 億円。財政力は際だって良かった。現在は社会経済状況の激変で財政状況が急速に悪化。児童館の暖房設備の修理が進まないなど、市民サービスを旨とする職員も予算確保に悩んでいる。

事業費が青天井の区画整理課職員は、一生懸命仕事すればするほど反対する住民を苦しめることになり、つらい立場だ。

「市民の仕合わせを願う」というのが市長の基本姿勢と聞く。前市政からの継続計画であっても反対住民は多く、社会環境も大きく変わっている。事業計画を検証し、変更が必要だ。

前議会で「区画整理の見直しは法的には可能である」と、一步踏み込んだ答弁もあった。決定権は市にあるということは、市長の決断がスタートだ。行政と権利者、第 3 者が膝をつき合わせて話すような会議を作り譲り合ったベストな案を作るのがこれからの課題だと思う。

羽村駅西口区画整理反対の会は、いかなる政党にも所属せず、超党派で活動する住民の会です。あらゆる活動は皆さんの会費やカンパで運営されています。住民合意のない区画整理に反対し、地域のまちづくりを考えます。

【連絡先：神屋敷 555-4187 山崎陽一 555-5098】

